

## 音楽科 学習指導案

授業者 居城勝彦

### 本授業の要旨

音楽Ⅱにおける諸活動を通して生徒たちに向き合ってもらいたい本質的な問いは、「現在そしてこれからの自分の生活にとっての“音楽”について追究する」ということである。多くの生徒たちにとっては、学校生活 11 年間で最後の音楽の時間となるのが音楽Ⅱである。これまでの自分と音楽との関わりを振り返り、その意味を再認識して、これから先の生涯にわたる音楽との関わり方に見通しを持つきっかけとしてほしい。

### 1. 研究主題との関わり

#### (1) 本単元で育てたい「資質・能力」

本単元では「C.発信する力」及び「E.関係を構築する力、協働する力」に着目する。

生徒は、現在接している音楽やこれまで接してきた音楽の意味や価値を再認識し、これからの人生で音楽とどのように関わるのかを考える活動である。これは、教師が生徒にとって未知の音楽文化と出会わせることと同じくらいの意味を持つ、思考を伴う表現活動になりうると考えている。また、学校音楽教育の重要な一側面である「音楽を介して人とつながること」に対して、自分なりの考えを持って取り組めるようになることが期待される。

#### (2) 育てたい「資質・能力」を評価する方法

歌唱表現については、パフォーマンス評価として授業中の演奏への取り組みを評価する。その他の評価としては、活動中の発言やディスカッションへの取り組み方、「わたしの音楽史」のワークシート及び継続的に取り組んでいる音楽学習カードへの記述を評価する。

**2. 対象** 2年EH組（男子 11 名、女子 18 名 計 29 名）

**3. 単元名** 自分の音楽史を語る・奏でる

### 4. 単元の目標

自分の音楽との関わりを振り返り、それを仲間と共有することを通して、これから先の生涯にわたる音楽との関わり方に見通しを持つ。

### 5. 単元設定の理由

#### (1) 生徒たちの実態および本単元に至るまでの学習

生徒たちは、週 1 回の表現活動に浸れる時間を存分に楽しんでいる。音楽Ⅰ（2 単位）では、日・伊・独・英・羅の各言語の歌曲や合唱曲の演奏表現と楽曲の成立背景に迫る音楽史、サンバの合奏とブラジル理解、音階や調性に関する楽典について学習した。3 学期には 1 年音楽選択者全員で「ハレルヤコーラス」（ヘンデル作曲）と「大地讃頌」をオーケストラ部の演奏で合唱し、卒業式・入学式で披露した。音楽Ⅱ（1 単位）では、ゴスペル版の「ハレルヤコーラス」や古典派・ロマン派のドイツリートを演奏に取り組んでいる。

#### (2) 教材の特性と授業者の手立て

本単元は演奏表現だけでなく、いつも以上に思考も要求する展開を伴う活動となるため、単元の導入を工夫した。学校図書館司書との連携で、音楽室でのブックトークを取り入れて、生徒の試行の間口を広げることから始めた。以下は、司書の岡田さんによるブックトークについての説明である。

ブックトークとは、通常あるひとつのテーマにそって、数冊の本を順序よく、じょうずに紹介すること。学校で行うブックトークは「正式の (formal) ブックトーク」といわれる。今回は居城教諭の音楽授業「自分の音楽史を語る・奏でる」を深める内容とし、テーマを「私にとっての出会い」と設定し、次の5冊の本を取り上げた。

#### 1. 「石を聞く肖像」(木之下晃 2009年 飛鳥社 762.8キ)

選書理由：「出会うとはなにか」

音楽専門のプロの写真家木之下晃の写真集を用いて“出会うこと”を生徒に意識化させる。

「写真家と音楽家である被写体とのコミュニケーションはほとんどない」「もっと人の内面を掘り下げようような写真を撮りたい」「個人的に撮りたいと思う芸術家の一人一人に了解を得ながら20年間撮りためた写真集である」

“出会いたい”と熱望した木之下さんの気持ちへの理解を通して、音楽との出会いを考察させる。

#### 2. 「飛び跳ねる思考」(東田直樹 2014年 イースト・プレス)

選書理由：「自由と出会う」

不自由だからこそ出会える新しい自由とは何か。重い自閉症の東田直樹さんのエッセイ集。

「自分は人と会話する事ができない」「口から出る言葉は奇声や雄叫び、こだわり行動は飛び跳ねること」「壊れたロボットの中において操縦に困っている人のよう」「言葉を選んでいる時に音楽が言葉を運んでくれることがある」

そんな東田さんの日々の思考を通じて自己の内面の変化に出会ってほしい。

#### 3. 「ジ・アート・オブ・シンゴジラ」(庵野秀明 2016 カラー 778.21シ)

選書理由：「しつこくなければ出会えないもの」

制作する側でしか出会えないものがある事の理解を深める。2016年夏に上映された映画「シン・ゴジラ」の作製資料集。その数15万点以上の膨大な資料から厳選された図、写真が載っている。

ゴジラの社会的側面の説明「水爆実験によって安住の地を追い出されたジュラ紀の恐竜」

時代背景

1952年 アメリカが人類初の水爆実験実験に成功。

1953年 ソヴィエト連邦(ロシア)水爆実験実験に成功

1954年 第五福竜丸ビキニ環礁でおこなわれたアメリカの水爆実験に遭遇、23人の乗組員が被爆。

実際の映画の制作現場の過酷な様子の説明。

「作品そのものがゴジラだった」「災害のような仕事」

助監督の中山氏曰く「スクラップ&ビルド」壊しては作りの繰り返し。

挫けずに乗り越えたからこそこの作品ができた。

厳しい現場の当事者でなければ出会えない経験の蓄積への共感を深めてほしい。

#### 4. こころ「絵本のことなんて何も知らなかった」(筒井大介 2017 35平凡社)

選書理由：「違和感に出会う」

「何かに出会いたい」と東京の大学に出てきたフリーの絵本編集者の筒井さんが、嫌で置いてきた子ども時代の自分に、絵本を通して再会するエッセイ。嫌なもの、嫌いな自分に出会う事も出会いの一つとしてある。

人生の中に訪れる多様な出会いを理解してほしい。

#### 5. 「韓国の美術日本の美術」(鄭于澤 並木誠士 2002 昭和堂)

選書理由：「比較からの出会い」

見知った美術品を韓国と日本で比較し、比べる事で出会う事の意味。同時に、比べるには自分自身に判断する能力を養わなければならない。

本校での導入の際に行ったポイントを以下に述べる。

- 1 ブックトークを行う目的を生徒に明確に伝える  
実技だけではなく授業を行う意味を生徒と共感できないと高校ではブックトーク授業は成り立たないのではないかと考えた。
- 2 多様な本を用いて多方面からの問題提起を試みる  
興味の範囲が広い高校生に「出会い」を意識化させるため、選書のジャンルを写真集、資料集、エッセイ、工芸美術とばらけさせた。今回は、出会いのイメージが固定化されると考え、敢えて小説を選書しなかった。音楽の専門書を選ばなかったのも同様の理由からである。

今後に向けて

生徒の学習カードで今回のブックトークへの感想

「日頃深く考える事が少ない内容だった」「自分では手に取らない本だったが、興味がわいた」

「僕の音楽史を振り返ってみるの楽しそうです」等、

音楽授業を深めるためのブックトークとして生徒が楽しんでくれた様子が読み取れた。中高校の授業でブックトークを導入して学習を深めることは、あまりない様に思うが、生徒の視野を広げるためにブックトークは有効だと思われる授業となった。

学習課題に関心が向きにくい学校などは、生徒に合わせて選書を組み立てられるブックトークは、授業に導入すれば有効活用ができると思われる。

(文責：東京学芸大学附属高等学校 司書 岡田和美)

## 6. 指導計画

### (1) 単元計画

第1次 「私にとっての出会い」をテーマとしたブックトークから、自分と音楽との出会いを振り返る「自分の音楽史」を作成する。

第2次 第1時 エピソード付きで挙げた曲から重なる曲を探す。

第2時(本時) 重なった曲の鑑賞や演奏を通して、曲に対する思いの共通項や曲は異なるがエピソードが重なったものの共通項を探り、これからの人生での音楽との関わり方を考える。

### (2) 本時の学習(3/3時間目)

#### ①本時のねらい

鑑賞や演奏することを通して仲間の思いを知り、これからの人生での音楽との関わり方を考える。

#### ②本時の授業展開

時間	学習の流れと生徒の活動	教員の指導と手立て
導入 5分	「エピソード付きで挙げた曲で重なりがあったものを確認しよう」 ・60曲中に4曲の重なりがあった。 ・初めて聞く曲名があった。 ・合唱曲を歌ってみたい。	・前時を振り返り、各自が2曲ずつ挙げた曲の中で重なりがあった4曲を確認する。各自が挙げた楽曲全てが尊いが、時間の都合上、今回は重なりがあった曲を鑑賞/演奏することを確認する。
展開 35分	「演奏や鑑賞して楽曲を味わい、その曲を挙げた人の思いを知ろう」 ・曲名は聴いたことがあるが鑑賞/演奏は初めてだ。 ・合唱曲だけど、アーティストが歌っているバージョンもある。	・バレエ「くるみ割り人形」より“こんぺいとうの精の踊り” 曲は聴いたことがあっても、バレエを観るのは初めての生徒もいるだろう。教科書を活用し、楽曲理解を深める。 ・「証」、「桜の季節」 鑑賞にはNコン JukeBox の HP の音源を活用する。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全曲通して演奏したい。</li> <li>・そのエピソード/思いに、同感や納得する。</li> <li>・曲は違うけれど、中学時代の合唱には同じような思い出がある。</li> <li>・合唱コンクールや卒業式に向けて、熱い練習を続けていた。</li> <li>・高校の合唱とはちょっと違う感じがする。</li> <li>・“ラデツキー”は人の名前だったんだ。</li> <li>・他の曲も鑑賞/演奏したくなってきた。</li> </ul>	<p>必要に応じてパート練習の時間を取り、サビの部分で合唱できるようにする。</p> <p>・「ラデツキー行進曲」</p> <p>1848年7月、ヨーゼフ・ラデツキー将軍の率いるオーストリア陸軍がイタリア半島を鎮圧したことを讃える曲。カドリーユのリズムが使われている。</p> <p>・曲は異なるが思いが重なるエピソードにも着目させ、学校音楽で経験したことの共通項に気づかせる。</p>
まとめ 10分	<p>「これからの人生で音楽とどのように関わっていくかを考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の中に音楽は必ずあるだろう。</li> <li>・演奏し続けたい。・仲間と一緒にやりたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽し続けることを評価するのではなく、これから先の生涯にわたる音楽との関わり方に見通しを持つ姿勢を評価する。</li> </ul>

### (3) 評価基準 (ルーブリック)

	4	3	2	1
A 課題を発見する力	これから先の音楽との関わり方に見通しを持つ。	曲にまつわるエピソードの共通項を見つける。	仲間と共通する楽曲を見つける。	自分の音楽史を振り返る。
C 発信する力	表現や鑑賞を通して持った自分の考えを発言する。	鑑賞した曲を楽譜の情報をもとにして演奏する。	エピソード付きの曲を発表する。	ワークシートに自分の音楽史を記入する。
D 展望・計画をもつ力	仲間の意見をいかしつつ、これから先の音楽との関わり方に見通しを持つ。	仲間の意見を聞きながら、自分の音楽史を見返す。	自分の音楽史から2曲を選び、エピソードを記述する。	自分の音楽史を年代順に整理する。
E 関係を構築する力、協働する力	仲間と自分との共通項を見いだしたり、仲間の見つけた共通項を理解したりしようとする。	仲間とお互いの音楽史について熱く語り合う。	仲間の音楽史に興味を持つ。	仲間の音楽史に興味を持たない。

## 7. 主な参考文献および資料

- ・生涯学習理論を学ぶ人のために (赤尾勝己編 世界思想社 2004年)
- ・2016年度 福井大学教育学部「音楽実習B」(八代健志先生)での実践
- ・DVD「英国ロイヤル・バレエ団 くるみ割り人形 (全2幕・ライト版)」(日本コロムビア 2011年)
- ・DVD「JOHANN STRAUSS GALA」(ARTHAUS MUSIK 1999年)
- ・Nコン JukeBox ホームページ [http://www.nhk.or.jp/ncon/juke\\_box/](http://www.nhk.or.jp/ncon/juke_box/)